



四季便り

The Garden of Medicinal Plants, Kinki University



クララ

学名	: <i>Sophora flavescens</i>
生薬名	: 苦参(くじん)
薬用部位	: 根
薬効	: 抗炎症、消炎、解熱



山野や土手などでよく見られ、草丈50~150 cmほどの茎の上部に5月から7月にかけて、30 cm前後の総状花序の淡黄色の花を多数咲かせ、花が終わると細長い豆果をつけます。学名の *Sophora* は、アラビア語で「蝶のような」の意で花の形に由来します。クララという名は、かわいい少女を連想させますが、噛むと苦くて目がクラクラし、多量に服用すると中毒症状で眩暈を起こすことからつけられた和名です。また、「ウジゴロシ」という別名があり、昔はケジラミや便所に入れてウジムシの駆除に使われたり、茎葉を煎じた液を農業用殺虫剤としてまかれていました。

薬用とされるのは根で、生薬名を「苦参」といい、極めて苦味が強く、薬用人参の根に形状が似ていることに由来します。『神農本草

経』の中品に収載されており、古来、解熱、利尿、温補、駆虫に用いられています。主要成分のアルカロイド(マトリンなど)には解熱作用、抗ストレス潰瘍作用、中枢抑制作用、利尿作用が、フラボノイド(クラリノールなど)には抗真菌作用などが報告されています。苦味健胃薬、鎮痛、解熱、消炎、利尿などを目的に内服されるほか、湿疹、炎症性のはれもの、あせも、水虫などに煎じ液が外用されます。漢方では、主に皮膚疾患に用いられ、慢性湿疹に用いる消風散や、たむし・ただれ・あせもなどに外用する苦参湯に配合されています。また、クジンエキス、クララエキスとして肌荒れ予防や血行促進効果を期待して化粧品・ヘアケア剤・入浴剤などにも配合されています。

